

ようやく夏らしくなりまして。来年の今日、私がここに立ってメッセージをさせていただいているなら、何を話題にするのか、今からもう分かっています。東京オリンピックですよ。この間ちょっと東京に立ち寄ったら、もうすごい盛り上がりで、チケットはインターネットで売っていますが即日完売。出してすぐ売り切れ。あと2回か3回チャンスがあるそうですが。昨日はメダルのデザインの発表があって注目を浴びています。

やっぱり人間は、勝利の物語を見るのが好きなんです。特に自分が応援している選手が勝利すると、自分とは直接関係ないのに、自分の人生を重ね合わせたりして。勝利する物語に触れる事によって勇気をもったり、やる気になったりという事があるんじゃないか。でもオリンピックは4年に1回。すぐに忘れられます。

私は思い出すたびに「よし!」とやる気が新たに出るといえるのか、勇気が湧いて来るといえる物語を1つ持っています。それは架空の物語ではなくて実話です。この実話を思い巡らすたびに「よーし!」という、何か新しい勇気が湧いて来る。それはイエス・キリストという物語です。

この集会では毎回、聖書の主人公であるイエス・キリストについて語っていますが、今日はイエス・キリストの一生をまるで詩に歌うように、初代教会時代に讃美歌の歌詞になっていたという説もある、流れるようにキリストの生涯を描いている箇所を一緒に見てみたいと思います。

**ピリピ2:6-11** キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。

人としての姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。

それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。

それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが膝をかがめ、すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。

細かく見ていくと実に深い。キリストが下って行って、高く上げられる。

下って行く段階だけで7段階あるのを、今日は全体をざっくり3つのポイントで、キリストがしてくださった事を考えたいと思います。

### キリストがしてくださった事①

**6** キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、

キリストは神のあり方を捨てて、人としてこの世界に来て下さった。何度も申し上げているように、聖書で語っている神は日本の宗教の神々とは全く違うもの。人間が作った神々ではなく、人間をお造りになった私たちの魂の親・作者の事です。日本人はキリスト教の聖書の神も、たくさんある神々の中の1つと捉え易い。違うんですね。この世界をお造りになった第一原因者はただお一人です。

3週間ほど伝道旅行で関東を回って来ましたが、ある教会に行ったら聖歌や讃美歌も歌うのですが、唱歌・童謡を歌うんですよ。しかも、先程のような爽やかな女性たちが賛美するんじゃなくて、前に男性4人が並ぶんです。

当集会在誇る「コル・シャローム」という男性四重グループがあるのですが、彼らは「コリ・シャローム」「これ、シャローム？」みたいな平均年齢70歳。聖歌・讃美歌を歌っていらっしゃるのですが、小節（こぶし）がきいてる。だから、聖歌なんですけど演歌。これ、YouTubeに上げると本人たち見るので。もう言っちゃったという感じなんですけど。「これ、シャローム？」『コル・シャローム』に強力なライバルが現れたと言うといて下さい」という事で、言うたると。

子供連れの若いお母さんたちもたくさん来られてて、唱歌や童謡を歌う。「うさぎ追いし、かの山♪」、『ふるさと』などを繰り返し歌うので、集会が終わった後で、4歳・5歳くらいのちっちゃい子供が一発で覚えているんです。家でも聞いていたのかも分かりませんが、耳に残ったそのメロディーを何回も歌いながら歩き回っているんですよ。でも、なんか違う。「うさぎおいし、まるやか♪」って歌ってる。「うさぎ追いし」は、うさぎを追いかけたあの山でしょ？多分この子ね、うさぎのバーベキューが美味しくて、スープがまるやかだったって、完全に誤解してますよ。だから私、気になって仕方がない。「まるやか、まるやか」言うから。

でも、人の事は笑えません。私、大学を出て、分析計器の商社に入って入社1年目の時、上司と一緒に食品工場に機械の設置に行きました。出汁の抽出装置ですが、私はこれを「でじる」と読んだ。そしたら上司が「はあ？」と。「でじる抽出装置の水分計を設置…」と言ったら「でじる?! だしと読んだ。お前、ホンマに大学出たんか?!」思いつき笑われた事、覚えてます。皆さん、そういう事ないですか？

私の友人に選挙カーの「ご声援ありがとうございます」を、大きくなるまでずっと「5千円ありがとうございます」と思い込んでいた奴がいましたが、そんなちょっとした間違い、あるじゃないですか？

新潟と長野の県境にある旅館で聖書講演会をやりました。開始が朝の7時ですよ。朝の7時に27人来ました。みんなで朝食を頂きながら聖書の話をして、終わってから「講師、質問です!」一方的に聞くばかりじゃなくていいなと思って「どうぞ!」と言ったら、「“そうどうしゅう”は、どういう字を書きますか？」曹洞宗は鎌倉仏教で、道元が開祖の禅宗でしょ。何で私にそれを聞くの？私はキリストの福音を宣べ伝えに来ている訳ですよ。

「なぜ、私に曹洞宗について質問なさるのですか?」「あなたが仰ったからです。」「いや、言うてませんけど…」「言いました。」「言うてません。」「言いました。」って言うからウン考えて分かった。『創造主』です。「神様は創造主なる方です。人が作った神ではないんです。」それが「そうどうしゅう」に聞こえたんですね。

なぜそんな勘違いになったかというのと、創造主という言葉が、それほどまでに日常会話に出て来ない単語だから。神はとにかく頭下げといたらええもんやと。秋と夏に神社に行って拝んどいたらええもんやと。触らぬ神に祟りなしで、あまり関わったら祟って来るもんやと。

人間の宗教心がこしらえた宗教上の神々と、聖書の神をごっちゃにしてしまうと、聖書が全然分からなくなるんです。創造主とは、無から全てのものを創造なさったオーナー。全ての被造物の持ち主。ボス。全宇宙の第一原因者なる神様を、聖書は神と言っているのです。

**ピリピ2:6** キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、神としてのあり方を捨てられないとは考えずに人となられた。イエス・キリストは創造主なる神ですが、そのあり方を捨てて人となったと言っているのです。いいですか。

創造主としての神をやめたのではないのです。神のあり方を捨てたのですが、人となられた後も創造主のままです。イエス・キリストの本質は私たちの造り主です。この造り主を目で見る事はできませんが、キリストが人となる事によって初めて、具体的なイメージで神を捉える事ができたのです。なぜこれが必要かという、人間は神様について無知だからですよね。

漫画原作者の小池一夫（こいけ かずお/1936-2019）、分かりますか？「しとしとぴっちゃん、しとぴっちゃん♪」、「大五郎」「ちゃん!」という。あれを見て、萬屋金之助（よろずや きんのすけ/1932-1997）、かっこええな、殺陣とかすごいなど。

小池一夫さんがエッセイを書いています。82歳の時のエッセイです。小池さんは分家。本家に女の子ばかり産まれて男の子がない。本家だから跡継ぎがどうしても必要で、彼は養子に出されました。「本家は大きな家で、経済的には恵まれて何ひとつ不自由しない。お付きのお手伝いさんがいて、身の回りの事全部やってくれる。」

「でも愛情という面では、恵まれているとはとても言えなかった。今で言うスキンシップ、新しいお父さんとお母さんから受けた事がない。血の繋がりが遠い妹たちがお母さんに甘えている姿を「はん!」と冷めた目で見ながら。怒られた事もない。両親は殆ど叱らないし、他の人も怒らない。怒られないという事は、大人は私に興味がない。私がどうなるかが、この家の人は何とも思っていない。跡継ぎが欲しいだけで、私という人格が欲しいと思っていた訳ではない。」

「そんな育ち方をした私は、愛と聞くと胡散臭いというか、偽善的というか、愛というものに疑念を抱かざるを得ないような、非常に疑り深い子供になってしまった。」

「ある時、友達の家遊びに行き、植木がたくさんあるのでかくれんぼしていたら、木のトゲが指に突き刺さった。小さな傷だけど「痛っ!」と言った時、すぐそばにいた友達のお母さんが「えっ」と振り向いて「痛いでしょう!」次の瞬間、私の指を口にくわえてトゲを吸い出した。そして消毒して、絆創膏貼って「これで大丈夫よ」と言ってくれたんだけど、治療してもらっている間、何にも言葉が出て来なかった。ドギマギして、ただ無言のまま。そのお母さんに聞こえるか聞こえないかのちいちゃな声で「ありがとう」と言うのが精一杯だった。」

「生まれて初めて、親切にされるって、こんなに嬉しい事なんや。触ってもらえるって、こんなに嬉しい事なんや。無条件で親切にする優しさを持っている人がこの世界にいるんだ。私は今でも、その時の事を忘れる事ができない。」82歳のエッセイ。

そして、彼の人間観が吐露されています。「優しい人は信じられる。でも優しすぎる人は、下心があるみたいで信じられない。優しい人はちゃんと厳しい。厳しい人は信じられる。でも厳しすぎる人は、私に何か一物持っているから信じられない。厳しい人はちゃんと優しい。つまり、自分の子供だったら悪い事をした時に「駄目!」とちゃんと怒る。でもそれは、関係を切るためではなく、その人を良くしようという動機で出て来るアドバイスで、そういう躰、そういうものが出来来ない親切や優しさはニセモノだ! でも、愛はそういうものじゃない。愛はあるのだ。」

これが彼の結論です。愛を実感できたのは、自分でじっと見・手で触れ・肌のぬくもりを感じ・抱き着いたり・触ったり・口で吸い出したりして、生身の人間として親切を受けた時、生身の人間の優しさを受けた時。その時初めて「愛ってあるんだ。」

旧約聖書の中にも「創造主なる神様は愛だ!」と書いてあります。でも、愛について疑り深くなった人間が本当にそれを実感して理解するには、目で見たり・その方が語る言葉を聞いたり・手で触れたりする事ができるように、神が受肉して人となってくださる事がとても必要な事だったので。

キリストはなぜ神のあり方を捨てて人となってくださったのか? あなたが人だからです。人は人のかたちを介してでないと、愛や人格的交流がイメージできません。言葉だけでは分からない。「しかし、キリストは受肉して人となって来て下さった。あなたが人だから」と語っているのです。

### キリストがしてくださった事②

**ピリピ 2:7** ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、

だから、キリストは食べなければお腹が空き、飲まなかったら渴いたんです。殴られたら痛かったし、蹴られたら血が出ました。人間と同じようになられました。

罪という1点のみが違うのであって、後は人と同じように弱さを担ってくださった。

**ピリピ 2:8** 自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。

人間にとって、死は選択の余地がないけれど、罪のないキリストには、死ななくても済む選択もあった。死は神から離れるという罪の結果、人間の中に入って来たもの。罪のないキリストは死ぬ必要はない。死にまで、それも十字架の死にまで従われました。これは、私たちの罪を永久処分するための身代わりの死を受けるために、キリストは十字架に向かって行かれたという事です。

皆さんはこの夏、自然に関する旅行に出かける予定がありますか? 知床の国立公園の中の特別自然保護区、ネットで見られるのですが、めっちゃキレイです。知床、夏に一度行ってみたい。冬は絶対倒れます。スゴイひ弱やから寒いダメ。夏の知床いいなあ。

この自然保護区でネイチャーボランティアという仕事をしていた方がいます。自然保護区でたぎぎの不始末とか、出来るだけ自然の状態を保つためには人間の努力が必要なんですね。それで色々な活動をなさっているのですが、知床の自然保護区には特別な独自のルールが1つある。それは、この保護区で関係者が野生のエゾシカが死んでいるのを見たら、発見者がその死骸を処分しなければならないという事。

昨日、家内が吉野に帰ったんですが「帰り、猿死んでた。」「なんで、死んでたって分かんねん?」「なんか、こないして(頬杖ついて)死んでた。」「ほう。で、どうした?」「何にも。」そのまま放置して帰った。死んだ猿を見つけたからって、その人が猿を死に至らしめたんじゃないから、責任を負わなくてもいい。

でも、知床の自然保護区では、関係者が見つけたら、周りに関係者が誰もいなくても、その人が1人でそれを車に積んで処分しないとイケません。その理由は、死骸だから放っておくと腐る。そうすると山からヒグマが下りて来る。熊の嗅覚は非常に鋭くて、何十キロ先の腐った肉の臭いを感知する。

特に夏は、冬眠のために食糧をドンドン体に蓄えないとイケないので、とにかく食べ物ないかと捜し回っている。遠くの方に腐った肉の匂いがしていたら、人間が出没するのが分かっているけど、背に腹は代えられないから下りて来る。そして人間と遭遇したら事故です。

ツキノワグマも怖いけど、ヒグマはめっちゃでかい。人間は太刀打ちできません。それで、死骸を処分しないとイケないんですが、発見した時は大抵腐っている訳で、強烈な匂い・ウジが湧いてる・血も流れてる・背負ったら汚れる。何よりも大人のエゾシカは巨体。足で小石を蹴るように移動するんじゃない。

文字通り背負わないと軽トラに載せられない。腐ったそんな状態の死骸の下にもぐり込んで、ウーっと持ち上げてトラックに載せ、すぐに現場から人里に行って焼却したり、深い穴を掘って、完全に匂いの痕跡を残さないような処分をする。

それがボランティアの仕事。それを読むまではいいなあと思ったけど、絶対向いてへんわと。そもそも300キロくらいあるシカを持ち上げるって無茶苦茶な話。でも、死骸を放置すると、恐るべきものを招き寄せる事になる。この死骸は、罪のひな型のような気がします。

キリストは、なぜ罪を処分するために世に来て下さったのか？

創造主なる神様から離れるという事、創造主なる神様を無視して生きる事が罪の根本的な意味です。

創造主なんかいない・人間を見つめる存在なんかいないと考えると、良心が機能しにくくなる。

私たちは人が見ている所で悪事を行いません。でも誰も見ていなかったら、或いは誰にもバレないととなると、ブレーキ外れるんじゃないですか？

私たちがいつも見ている神はいない、という人生観に立つならば、良心は機能しにくくなると思います。

神から離れるという罪の結果、神に対しても・人に対しても・自分自身に対しても悪を行う。

これらの悪はバレない時は感じないけど、神の前に強烈な悪臭を放つもの。

もし罪をずっと放置しておくなら、恐るべきものを招き寄せる事になる。それが死後の裁きです。

聖書は「人間は1度死ぬ事と、死後に裁きを受ける事が定まっている」と書いているのです。

この裁きを免れるためには、罪を永久処分する以外にはありません。

私たちの罪の永久処分のために人となられたので、人間なんですが、同時に人となられた神。

だから、罪が全くないキリストは、罪人の身代わりになる資格を持っておられるのです。

### ピリピ 2:8 死にまで、それも十字架の死にまで従われました。

十字架の死に従わないという選択肢もありましたが、十字架にかかって死んで下さった。

それは、まさしくボランティアが重いエゾシカの死骸を担ぐように、非常に重い私たちの全ての罪を背負うためです。キリストは十字架上で、私の・あなたの全部の罪を背負って、永遠の彼方に持って行ってくださったので、罪はもう神の前に見えないんです。

「私の罪は、キリストが十字架上で永久処分して下さった!」。これがここのメッセージ。

### キリストがしてくださった事③

#### ピリピ 2:9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。

キリストは十字架で死んで下さった後、墓に葬られたけど、3日目に復活して高く上げられました。

高く上げて。キリストはよみがえられただけでなく、よみがえってから40日間弟子たちと一緒に生活し、そして、エルサレムの東側にあるオリーブ山から天に帰って行かれました。

それを目撃した人たちが書いたのが、この福音書や使徒の働き・聖書の手紙なのです。

さて、キリストが死んでおしまいなら、果たしてキリストだったのかよく分かりません。

というのは、死んでそのままなら、私たちと代わり映えしないから。

彼が生きている時に言われた「わたしは神である。全ての人の罪を贖うために死んでよみがえる」という約束を果たせないなら嘘つきになります。復活は、イエスが本物の救い主であったかを決定づける動かぬ証拠。このよみがえったキリストを目撃したのがペテロやヨハネ・キリストの弟子たちです。

ピリピ人への手紙も、復活したキリストと出会ったパウロが書きました。

ところで先週の土曜日、この会場で「夏のお楽しみ会」がありました。毎年夏とクリスマスに、子供向けに色んな模擬店・焼きそばやフランクフルトなどの出店・射撃とか当てもん・バルーン風船とか。言ってる意味分かりますか？ 部屋中風船だらけにして宝物をもぐって探す。今回 240 人来たんですよ、皆さん。この部屋に 240 人。もうね、こんな空白ありません。後ろから前に行くのに、かき分けないと動けない。240 人の中で 1/3 の 80 人は保護者の方々。160 人が子供たち。

私は小学校低学年～中学年を想定して、20 分でお話を頼まれていたので、そのつもりで前に立ったら、これが未就学児。80 人はいましたね。未就学児ってこども園、5 歳以下。だから親が連れて来たわけ。ちっちゃい子たちがビッシリで、私を不思議な生き物見るみたいに「アー」って見て。

全員が会場に集まっているのは、聖書のお話を聞くためじゃないんですよ。一人ひとり数字が書いてある入場券を持っていて、抽選会で当たると豪華景品がもらえる。それは、聖書のお話の後にあるんです。楽しいのは後で、最初に嫌なのが…。嫌なのって言うな！みたいな。みんな「当てもんや！」と来てる。

もうとにかくワイワイガヤガヤ。皆さんみたいにお行儀良く静かにじゃない。24 人が私語してもしんどいよ。240 人がね、もう騒音です。何が何だかわけが分からないという事で、18 分くらいお話したのですが、正直言って、全体のちょうど半分くらい、前半分はよく聞いてくれる。お母さんもお父さんも子供たちも頷いて。

ところが後ろ半分は、特にお母さんたちがママ友同士でベラベラ。「こっち向いてくれや」と。それだけ多かったら仕方ないのかもしれない。というか、家でテレビ見ているようなものですよ。会話してはんねん。時々興味ある事が聞こえたら「せやねんて。」で、また別の会話が始まる。

最後は「みんな、ビックリせんと聞いてくれよ！ イエスさまは死んだけどよみがえったんだよ！ これ、スゴイと思わない？ どんな歴史上の有名な人も死んでしもたら一貫のおしまいやん。イエスは死んでもよみがえった、スゴイやろ！」だけど、ぺちゃくちゃ、わちゃわちゃ。

終わってから、魂のぬけがら状態になって、椅子にへたり込んでハーハー、肩で息してましてん。そしたら、すぐにスタッフのクリスチャンがパパッと動いて、そこが射撃会場になるんです。射撃したいから子供たちがズラッと並ぶのですが、待ってる間に私もスタッフやと思って、「ぼくのこれ、撃てますか？ やってもいいんですか？」「まあ、良からう」とか言って。

2 人、小学校 1-2 年くらいの男の子がものすごく慰めてくれた。慰めてというか、しかも丁寧語。「おっちゃん！」とかじゃない。大阪弁やけど、「あの一、イエスさまに会った事、あるんですかー？」「なんで、そんな聞くん？」「会った事あるから、あんな風に話せるんですかー？」それを聞いた時、ものすごく嬉しかった。肉眼で見た事ないけど、聖書でイエス・キリストと会ってるからね。「会ってなかったら、あんな風に話せないと思います。ぼく、射撃できますか？」ガクッときたけど。

もう 1 人は「イエスさまってすごいなあ。死んでも大丈夫やったん？」大丈夫っていうか「よみがえったんやで。」「せやから、死んでも大丈夫ねんやろ？」「大丈夫や。」「なら、撃たれても大丈夫なん？」ちょっと誤解がある。「死んでもよみがえった。復活したんや。」「そうか。すごいな。ぼく、明日行くわ！」次の日メッセージしたのは息子で、「新しい子、来てたか？」と聞いたら「いや、いつも通りやった。」その子がいつも来てる子かもしれないから、何とも言えないんですけど。

だけど、復活という事をまともに受け取ったら、「これ、スゴイな!」となるんじゃないですか?  
よみがえったという事は、今天におられるという事で、やがてクリスチャンたちを迎えに来られる。  
これを**再臨**と言います。

再臨の前まで、キリストは何をなさっているのか? 日々、地上にいる私たちのために祈っておられるのです。クリスチャンがつまづかないように。聖書を読む時に集中できるように。分かるように。神の愛がもっと実感として届くように。キリストはいつも私たちのために祈ってくださっているのです。

私は伝道旅行に行くと、方々にご指定の鍼灸師がいます。東京に全盲の鍼灸師がいて、家に盲導犬がいる。めっちゃ触りたい。でも触れない。いつもアイコンタクトで「来たで。」「分かってる。」みたいなね。その方は生まれもってではなく、どんどん視力が落ちて50歳で失明、全盲になりました。生きて行くために一流の鍼師になるという事で、本当にすごい人。

日本人のマエストロで3本の指に入る、誰もが知っている指揮者が、余りの過労で肩が上がらず、タクトが振れない。その日オペラハウスでコンサートなのに肩が上がらない。「何とかしてくれ!」と駆け込んで来て1時間、完璧。  
そこに行くと有名人とニアミスがあるという事で、早目に行こかなと。

彼はクリスチャンで、治療が終わったらいつも「高原兄弟、祈ってくれ。」「もちろん祈りましょう。祝福されるように。」ボイスレコーダー取り出して、祈りを録音すると。そんなんせんでも。「いや、録音したい。去年のも、その前のも、シリーズで全部録ってあるから。」えーっ! いつの間に。

祈り終わった後で、「何のために録音するんですか?」「あなたが帰った後、祈りを聞いて、自分のために祈ってくれた人がいる事を思い出す。すると『神様がこの願いを聞いてくださる。これは私だけではなくて高原さんの願いでもあるんだ。2人の祈りは強いんだ。』そう思える。それだけではなく、人の祈りを聞く事によって、今この瞬間も、天でイエス・キリストが私のために祈ってくださっている事を思い出すと、何だか嬉しくってね。」

キリストは十字架で死なれましたが、復活して高く上げられた方。その高い天で今、あなたのために祈っておられます。あなたが聖書を理解でき、キリストを信じる決心をして、それを内緒にするんじゃなくて、自分の信仰を言い表すように。  
色々な人間関係の中で、恐れ縮こまって、何もしないのではなく、キリストの勇気づけや励ましの言葉を理解できるように。受け取るように。

私はここで、1人で語っているんじゃないんです。バックアップしている方は全知全能の救い主イエス・キリストですよ。このイエス・キリストの人生の全てをもって完成したのが救いです。いかなる罪人をも赦して余りある救い。それをキリストは成し遂げてくださいました。このキリストをどうしたらいいんでしょう?

**ピリピ 2:11** **すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。**  
イエスは人の名前、キリストは救い主という意味。イエス・キリストとは「イエスは私の救い主です。そして、この方は私の主です。神です。」そう告白する全ての人に、神がキリストにあって準備した全ての祝福がなだれ込んで来ます。その人の人生を満たします。ゴックンと呑み込んだ人だけです。  
是非イエス・キリストを信じて下さい。心からお勧めします。

